

# 洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内  
洛友会  
〒606-8501  
京都市左京区吉田本町  
075-753-5270  
www.rakuyukai.org

## コロナとWi-Fiの進化

東京支部長 北條 博史 (昭56年卒)



私は昨年より一年間、東京支部長を務めてまいりましたが、この1年間も新型コロナウイルスにより行動がかなり制限される形となったため、東京支部としてはコロナ前のような活動には至りませんでした。

コロナにより我々の仕事や生活は一変しましたが、悪いことばかりではなく、これまではなかなか普及しなかった在宅勤務やオンライン会議などは、一気に普及することになり、コロナ後のニュー



ノーマル(新しい生活様式)としても、引き続き利用される見込みとなっております。

皆様はあまり認識していないかもしれませんが、もし今回のコロナ感染があと10年早かったら、つまりもし2010年に蔓延していたとしたら、とんでもないことになっていたのではないかと思います。

というのも、当時、ブロードバンド回線(光回線FTTH)の普及数は2020年の加入者数(3500万加入)の半数以下(1700万加入)しか契約しておらず、光回線の速度も最大が100Mbpsのベストエフォートが中心で、現在のギガサービスと比較すると実効スループットもネットワーク容量もけた違いに少

ない状況でした。

また、モバイル回線は、NTTドコモがLTEを最初にスタートした2010年なので、ほぼ全員がまだ3Gを使っている状況です。ご存じの通り、3Gのデータ通信の速度は高々14Mbpsでしたから、今回のような、急な在宅勤務への移行が起きたとしたら、おそらく固定回線もモバイル回線もそのトラフィックの急激な増大に耐えられなかったのではないかと思います。

その場合、オンライン会議など一部のブロードバンドユーザに限られたものとなり、ほとんどの在宅勤務社員は、持ち帰った資料をもとに、電話を中心として連絡を取りながら資料を作成するしかないような状態になっていたかもしれません。

つまり、ここ10年間の通信環境の著しい発展が、今回の新しい働き方を裏方として支えることになったのかなと思うと、これまで通信関連業界で仕事をしてきたことが無駄ではなかったと感じることができ、ちょっとうれしく思います。

私が現在会長を務めている一般社団法人無線LANビジネス推進連絡会は、2013年に設立され

た、Wi-Fiのビジネスに関わっている法人・団体で構成される業界団体です。まさにこの10年間の通信インフラの発展をWi-Fiという側面から見えてきたことになりました。

Wi-Fiは、これまで自宅や企業などに着実に普及してきていましたが、その始まりは、1997年にさかのぼります。米国のIEEEという学会(団体)において、802委員会(LANの標準化を行う)のワーキンググループ11で最初に規格が制定されました。これが元祖802.11となります。

その後、1999年には802.11a、802.11bという規格が、さらには11n、11ac、11axというふうに規格が進歩してきました。一方で、異なるメーカー間であっても問題なく接続できることを保証するためにWi-Fiアライアンスが設立されました(当初の名前はWECA)。

Wi-Fiは当初、ノートPCにカード型のWi-Fi機器をカードスロットに挿して使うような形でしたが、IntelがノートPCへのWi-Fi標準搭載(内蔵)する(いわゆるIntel Centrino)ことになったから、利用が大きく拡大しました。モバイルコンピューティング

の到来です。

ただ、ここまでは基本的に業務利用が中心でした。それを大きく変えたのがスマートフォンの出現です。2007年6月にステイブジョブズはiPhoneを発表し、Wi-Fiを標準搭載しました。これがWi-Fiの未来を大きく変えることになりました。

今までは、業務用のニッチな市場だったのが、一気にマス向けに拡大し、いろいろなビジネスの可能性が生まれました。2010年頃には、スマートフォンによる爆発的な通信量の増大に対応するため、モバイル事業者が中心となって、空港・鉄道やコンビニなど人の集まる場所にWi-Fiを設置し、スマートフォンのトラフィックを固定通信側に逃がす取り組み(トラフィックオフロード)が行われ、そのアクセスポイント(基地局)の数は、モバイル3社合計で100万APを超えたともいわれています。

通信規格も最初の802.11が2Mbpsだったのが、最新の規格802.11axでは最大9.6Gbpsにもなり、20年で何と約5000倍になったことになりました。最近のトレンドとしては、新たな周波数を利用した新たな規格の

普及が期待されています。一つは、3年くらい前に5Gが世の中に出てきたときに併せて利用可能となったローカル5Gです。これは、5Gがモバイルキャリア専用の方式である一方、ローカル5Gは、5Gの信頼性やセキュリティを持ちつつ、誰でもが使うことのできる通信システムになります。

さらにWiFiの世界でも、昨年9月に、6GHz帯を活用したWiFi 6EやWiFi 7(WiFi 6E)や920MHz帯を活用したWiFi 6(WiFi 6E)が利用可能となりました。特にWiFi 6EはIoT(「もの」の通信)用に定義された新しいWiFiであり、通信速度こそ数百kbps〜10Mbpsですが、通信可能距離は従来のWiFiの10倍となります(1km以上)。

この無線通信システムを使えば、農業分野では、遠隔の農地の植物の生育状況を動画でリアルタイムに見ることができるよう、災害対策の面では、川の水位や流れの状況を映像で見ることができるところから、危険を冒して現地に行く必要もなくなります。

WiFi 6Eは、これまでのWiFiと同様に自由に購入してネットワークを作ることが

出来るので、今後いろいろな用途への活用が期待されています。

今や、WiFiは、PCやスマートフォンに搭載されているだけでなく、ホームネットワークの普及とともに、テレビやビデオ、さらにはスマートスピーカーやエアコン、冷蔵庫に至るまで、ほぼすべてのタイプの端末にWiFiが組み込まれることになりました。その名は一般の人たちにまで知られることになり、映画の題名や音楽の歌詞にも自然に取り込まれていきます。

コロナの取り扱いが5類に移行され、少しずつ以前の生活に戻ってくるものと思えますが、オンライン会議やオンラインセミナーなど、その利便性からコロナ後も継続される取り組みもたくさんあります。WiFiを含む通信サービスが、これらのオンラインサービスのしつかりと支え、働き方改革の推進とともに、ポストコロナのニューノーマルを実現していくことを期待したいと思います。

**本部だより**

**洛友会本部役員会報告**

令和5年度役員会は、去る6月25日(日)正午より、東京学士会館にて、新旧5名の副会長、9支部長(代理を含む)、本部役員合計16名の出席を得て開催されました。役員会は、昼食を済ませた後、和田副会長の開会挨拶で始まり、萩原事務局長の司会で進められました。

まず、令和4年度事業報告と同決算、令和5年度事業計画と同予算案、役員改選がそれぞれ審議承認され、総会に提案されることになりました。また、9名の推薦会員が承認され、洛友会報の原稿依頼が承認されました。

引き続き、支部活動の状況が各支部から紹介され、意見交換を行いました。各支部もその規模に応じて会員向けのさまざまなイベントを開催し、若手会員の掘り起しや会費納入率の向上に取り組みんでいます。そのような支部活動のさらなる支援のために支部交付金を今後増額していく方向性についての議論も行いました。増額があれば支部のさらなる活性化につながる

るので歓迎という声と同時に、新たな会員がほとんど増えていないことから支部としての悩みの方向性と必ずしも合致しないといった声など、支部ごとの状況に差が大きいことが再認識されました。支部交付金については今後も検討を進めて参りますが、程度の差こそあれ、参加メンバーの固定化・高年齢化はどの支部でも悩みのひとつであると考えられます。とくに地方に就職、転勤や移住した会員は、是非とも支部活動への参加をお願い致します。

**推薦会員**

- (令和5年6月25日承認)
- 電気工学専攻 田中裕士 助教
- 金沢大学(2023年博士)
- 電子工学専攻 米澤進吾 教授
- 理学研究科(2008年博士) 正直花奈子 講師
- 東北大学(2013年博士) 向井 佑 助教
- 理学研究科(2015年博士) 通信情報システム専攻 新津葵一 教授
- 慶応義塾大学(2010年博士) 香田優介 助教

情報学研究科(2018年博士) 白木隆太 助教

名古屋大学(2022年博士) ・システム科学専攻 島崎 秀昭 准教授

理学研究科(2007年博士) ・エネルギー理工学研究科 金 史良 助教

九州大学(2019年博士)

**洛友会本部総会報告**

令和5年度本部総会は6月25日(日)午後、東京学士会館において、東京支部総会に引き続いて開催されました。ハイブリッド開催により、会場参加およびオンライン参加でそれぞれ、会員37名および12名の出席がありました。

松本会長は以前よりのスケジュールのご都合によりご欠席となった関係で、本総会をもち副会長としてはご退任の和田副会長から開会挨拶をいただき、京都大学としても支援しているウクライナの学生受け入れに関する寄付事業のご案内と呼びかけも行っていました。続いて、萩原事務局長の司会で、令和5年度の事業報告と決算、令和5年度の事業計画と予算案、役員の変更がそれぞれ承認されました。その後、退任さ

れる副会長（2名ご出席）と新副会長（3名ご出席）よりそれぞれご挨拶をいただきました。そのうち、とくに電気系教室関係のお二方に関してのご紹介になります。和副会長には引き続き名誉教授のお立場で幹事を務めていただくことと、川上養一新副会長にその後任をお願いすることになりました。とくに川上副会長は、洛友会の母体の電気系教室のご出身ではいらっしゃいませんが、大阪大学の博士課程をご修了以来、直ちに電気系教室にご奉職いただいて35年になられます。川上副会長からは、ご奉職前後の時期よりさらには遡る頃からの思い出話も交えてのご挨拶をいただきました。洛友会としても大変喜ばしいことで、変わっていく、あるいは、変わっていかねばならない洛友会を象徴するお話として紹介させていただきます。

続いて、萩原事務局長より洛友会本部報告、学内では学科長を務めの松尾幹事より電気系教室の現況紹介がなされました。令和4年度の活動事業として、洛友会および電気系教室主催の先輩と学生との交流会や電気系教室懇話会の様子が紹介されました。昨年度よ

り始めた新たな実施形態を本年も踏襲し、この2つの行事は11月祭の際の講義休講日を利用して同日連続開催とするのも案内されました。また、洛友会が後援しているエレクトロニクスサマーキャンプについての様子や学内の教員異動状況などが紹介されました。さらに、洛友会ホームページやそこから利用可能なWEB名簿管理システムについて、簡単に説明がなされました。最近個人情報の扱いの厳しさから、洛友会会員の新社員がいるか否かを把握することと自身が容易でないという話も耳にしますが、そういった情報の検索にも利用いただけるのではないかと思いますので、是非とも活用いただければと存じます。その他、現在の京都大学の吉田キャンパスと桂キャンパスの風景の紹介や学生の就職状況の報告などが行われました。

なお、本部役員会報告でも触れました支部活動等の活性化と密接に関連する取り組みとして、1件あたり最大5万円の学年クラス会・支部活動費等補助の申請を以前より受け付けておりますが、申請が必ずしも多くない状況です。この取り組みをより利用しやすいものとするために、本制度の趣旨

に合致する会合について、開催後の申請であっても受理する場合があります。あることを本総会にて正式に承認いただきましたので、あわせてご案内申し上げます。申請の締め切りは毎年3月末日と9月末日になっておりますが、例えば9月末日の締め切りに向けて、直近の締め切り翌日の4月1日以降にすでに実施済みのものに関しても申請いただくことが可能ということになります。開催後、もしくは承認後、30日以内に洛友会会報に掲載するための開催記事を送っていただくこととなりますが、是非ともご検討ください。申請書は事務局に依頼いただければ送付いたします。洛友会活動のさらなる活性化につながることを期待いたしております。

**役員の変更**

令和5年度の役員は次の通りです。

- |     |              |
|-----|--------------|
| 顧問  | 昭41 荒木 光彦(再) |
| 会長  | 昭40 松本 紘(再)  |
| 副会長 | 推薦 川上 養一     |
|     | (新・教室)       |
|     | 昭56 北條 博史(新) |
|     | 昭57 福田 隆(新)  |

幹事 昭50 北野 正雄

(再・幹事長)

昭56 和田 修己(新)

昭57 野田 進(再)

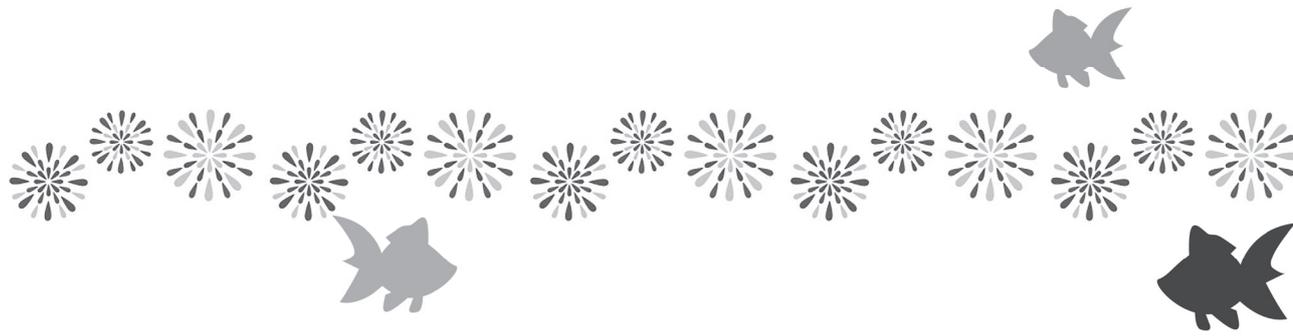
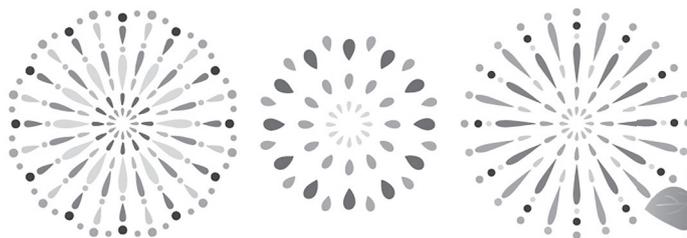
昭59 萩原 朋道

(再・事務局長)

昭61 松尾 哲司

(再・学科長)

平16<sup>博</sup> 佐藤 高史(再)



会員寄稿

あなたの知らない

(かもしれない)

道東の世界

石坂 裕昭

(平5年卒・北海道支部)

1995年に大学院を修了し、地元の電力会社に就職し、約30年が経過しました。その間、様々な制度改革があり、社名も変わり、現在は電力ネットワークを保守する会社に勤務しております。

30年近くの会社生活で何度か転居を繰り返し、居を構えてからは、現在で3度単身赴任生活を経験しております。1回目、2回目は自宅のある札幌から車で1時間ほどの街で、週末もほぼ帰宅していたのでその都市を知る機会も少なかったのですが、現在の単身赴任中の釧路市は札幌から300km

超東に行ったところであり、週末もこちらに在籍することも多く、色々知見も深まってきました。今回は約3年間の釧路生活で経験した、あまり知られていない釧路のある道東地域の情報をご紹介しますと思います。

1. 自然

釧路市や根室市を含む、いわゆ

る道東地域には3か所の国立公園

(阿寒・摩周、釧路湿原および知床)

があり、自然豊かで、シマフクロウやタンチョウ等の希少な動物が生息しており、それを目的に数多くの観光客が訪れます。また、夏も最高気温が25℃を超える日はほとんどないため、避暑地感覚で長期滞在する方が増えております(ただし霧の街と言われるくらいなので湿度も高く、20℃でも不快な日々もあります)。

そんな自然豊かな道東地方の中でも、電力ネットワークの保守に携わっていると、仕事で普通では行けない場所に赴くこともありま

す。そのような場所の一つに大黒島というところがあります。大黒島は釧路市から車で1時間ほどのカキで有名な厚岸町にあり、太平洋の大海原に隣の小島とともにボツンと浮かんでおります。小島には以前、学校もありましたが、現在は昆布漁時期に6軒ほどの漁家が生活しています。大黒島は無人島で、日本有数の海鳥繁殖地でもあり、コシジロウミツバメの繁殖地として有名です。また、海岸部にはゼニガタアザシが繁殖しており、可愛らしい顔で迎えてくれます(以上、町のホームページの情報で、私は見たこと

はありません)。

電柱や電線がある以上、どこでも点検に行くので、年に1回、漁船をチャーターし向かいますが、港・船着き場などなく、近くまで行つて後は海に入って大黒島へ上陸となかなかスリリングなスタートです。そこから、険しい砂地を2時間ほど歩いて、南側の厚岸灯台まで巡視を行います。かなりの体力を要しますが、そこから見える360度の太平洋の絶景が少しだけ癒してくれます。

最近ではドローンを活用するようになり、上陸しても徒歩で巡視することはなくなりましたが、ここに来ると北海道の大自然を改めて感じさせてくれます。

(写真を載せようと思いましたが、素人がスマホでとったので写りが悪く断念)

2. 野生動物

北海道と言えば野生動物の宝庫でもあります。特に道東地域は、希少動物のシマフクロウやタンチョウヅルを筆頭に多くの野生動物を見かけます。中でもよく見かけるのは、鹿、キタキツネ、ツルです。

釧路の大きな特徴の一つとして、その野生動物との距離感です。鹿やキタキツネなどは北海道に長

く住んでいると珍しくもないのですが、やはり見かけるのは郊外の山や原野というのが一般的です。中でも私が釧路で一番驚いたのは鹿です。こちらでは、群れを成して道路を我が物顔で歩いていた

り、一般住宅の庭で草を食べているのは当たり前前の光景ですが(写真参照)、突然現れる光景にはいまだに驚かされます。

鹿による作物被害は深刻なものとなっておりませんが、もう一つの問題として交通機関への影響です。JRに乗っていると、鹿を見つけて急ブレーキがかかったり、不幸にも衝突するケースがあります。

衝突した場合、その処理に時間を要し、長い時では一時間以上遅延する場合があります。そのため、自宅へ帰るときに時間通りとまらないこともあります。こればかりは諦めるしかないのが現状です。

ちなみに北海道と言えば木彫りで有名な熊もありますが、50年以上の人生でも流石に野生の熊は見ることありません。ただ、最近札幌などの都市部でも熊の出没のニュースを見かけます。

いずれも動物園など見かけるにはかわいいものですが、道端では会いたくないものです。

3. グルメ

最後にグルメについて触れたいと思います。北海道と言えば、海産物が有名です。特に釧路・根室はかつて世界有数の漁港でもあり、そのため、美味しい海鮮を堪能することが出来ます。釧路駅前の市場では、ご飯の上にお好みの具をのせて作るオリジナルの海鮮丼、「勝手井」が有名で多くの観光客が訪れます。

ただ、こちらで暮らしていると肉を中心とした洋食も意外とメジャーです。勝手な推測ですが、海鮮に飽きた市民のリクエストが発端なのでしょうか。そのようなグルメをいくつかご紹介したいと



思います。

・ザンタレ

釧路のお店がザンギに甘辛いタレをかけて提供していた「ザンギ+タレ」ザンタレ」があります(ちなみにザンギとは鶏の唐揚げのことで、少し味付けが濃くなっており、北海道では鶏の唐揚げではなくザンギと呼びます)。定食屋、居酒屋で注文すると山盛りになって出てきますので、中高年の胃袋には少々厳しいです。

・スパカツ

名前で想像がつくかと思いますが、熱い鉄板の上に、太麺のスパゲッティ、ポークカツ、ミートソースがかかっております。よくテレビ等で見かけるのでご存じの方も多いかと思いますが。こちらの中々のポリュームで一人前を頼むときは気合が必要です。

その他、根室のエスカロップ(ケチャップライスまたはバターライスをポークカツを乗せてドミグラスソースを掛けた料理)なども有名ですが、やはりお肉料理です。

釧路市は蕎麦も有名で蕎麦屋も多数あります。その蕎麦も独特で、緑の蕎麦(クロレラが入っている)、牡蠣そばなどがあります。なかでも、本原稿のタイトルの元とした某TV番組「〇×の知らない

い世界」で紹介された「かしわぬき」(蕎麦が入っていませんが)で有名なお店は休日ともなれば行列もできる人気店です。

以上、少し深掘した釧路の情報をお届けしました。色々魅力ある都市ではありませんが、漁獲量の減少や炭鉱・製紙などの基幹産業の衰退などで人口減少が著しい街でもあります。このような特徴のある街が元気になってくれることを心から祈り、筆を置きたいと思えます。

大崎上島旅行記

中村 大地 (平31年卒・中国支部)



私は、令和3年度に修士課程を修了し、地元広島に本社を置く企業に就職しました。今年度で入社3年目となるが、業務も増え、慣れない仕事に苦戦することも多いですが、会社から信頼されている

と感じることも多く、やりがいもあるため頑張っています。仕事の話はここまでとしてこれから本題に入ります。

私自身はインドア派で特に趣味はありませんが、行ったことのないところへ遠出することや、やったことのないスポーツ等をやることなどはどちらかというと好きです。そのため、周囲から誘われるなどの機会があれば積極的に参加しています。今回はその中の一つである大崎上島での旅行記を述べていきます。

大崎上島は広島県広島市の東に位置し、最寄駅としてJR呉線竹原駅があり、広島駅から在来線で2時間程度で到着します。今回私は社内のメンバーに誘われ、大崎へ1泊2日の旅行へ行くことになりました。集合場所の竹原港への移動手段は各自自由でしたが、私は大学時代から世話になっていた愛車(スズキジタサー150)で向かいました。朝6時半に出発し、社宅から下道で約90km、初めての道であり、かつ、バイクのためナビの確認に手間取るといったこともあり少々道に迷ってしまいましたがおよそ2時間半で到着しました。これまでのバイクでの遠出の経験からこうなることを想定し、

余裕を持って出発したおかげで集合時刻には遅れずに済みました。その後、港からフェリーで愛車と共に出発し、30分後大崎上島垂水港へ到着、そのままバイクで最初の目的地であるSUPP会場へ向かいました。

SUPPとはStand Up Puddle boardの略でサーフボードをボードのように漕いで進むウォータースポーツの一つです。私自身ウォータースポーツ自体が初めてでうまく出来るか不安な点はありませんでしたが、実際にやってみると非常に楽しかったです。最初はバランスをとるのに苦労しましたが、慣れてくると波に取られそうになっても崩れることなく結構なスピードを出せるようになりました。慣れてきた頃にインストラクターさんから上級テクニックを教わったので、真似してやってみると非常に難しく、何度も転覆して海に落とされ、結局身に付けることは出来ませんでしたが大変貴重な楽しい時間を過ごすことができました。海に頭まで浸かることも数年ぶりでしたがいくつになっても泳ぐのは楽しいものですね。2時間ほどSUPPを楽しんだ後、次の目的地である民宿へ移動しました。

こちらの民宿にてBBQを実施しました。先程までウォータースポーツをやっていたこともあり、自分が思った以上に汗をかいていたようで、お酒とお肉が非常に美味かったです。最近は何歳をとったからか食事が学生時代から減ってきていましたが、今回は運動後ということもあり、いつも以上に食べる事が出来ました。同じ会社のメンバーとお酒を交えて行うBBQはとても盛り上がり、楽しく過ごすことができましたが、思った以上に酒が進んでしまい動けなくなりました。26にもなるのは反省点ですね。26にもなるのでいい加減自分の限界を見極めたいものです。今回のことは今後に活かして旅行中に酔い潰れないようにしようと思えます。

2日目、かなり眠ったおかげで酔いは完全に覚めており、体調も万全な状態となりましたので、そのまま民宿から歩いて埠頭へ向かいました。瀬戸内海がある程度移動した後、釣りを2時間ほど行いました。釣りの経験は過去に一度だけあるだけで船釣りに至っては初めてでしたのでとても良い経験になりました。結果としては一匹

も釣れませんでした。船に揺られながら釣り糸を垂らすだけでも非常に楽しかったです。

その後解散となり、帰宅してこちらの文章を書いています。今回の旅行では初めての経験をさせていただきました。特にSUPはそもそも名前すら知らないスポーツで非常に面白かったので、今後機会があればやってみたいと思っています。この文章を読んで私と同じように初めて名前を知って興味を持った方は非常に楽しいのでぜひやってみてください。ただし、ちゃんと日焼け対策を取らないと現在赤くなった両手の痛みに耐えながら頑張つてこの文章を書いている私になるので日焼けには十分に注意してから行うことを薦めます。

### 支部だより

### 北陸支部総会報告

2023年5月27日(土)、北陸支部は4年ぶりに集合での総会を福井市日本料理瀨名にて開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、過去数年間、総会は書面やオンラインでの開催となっていました。今回は本部から両宮尚之先生に出席いただき、北陸支部からは12名が出席しました。

総会に先立ち、両宮先生から超伝導に関する講演が行われ、最新の研究動向や水素社会との親和性等の説明をいただきました。出席者からはさまざまな質問が出る活発な講演会となりました。

総会では、冒頭、笠原支部長から、支部長就任後初の集合開催となり、みなさんと顔合わせ出来たことを喜ぶとともに、これからも北陸支部を盛り上げていきたいとの挨拶がありました。続いて、両宮先生から本部・電気系教室の近況報告があり、時代の変化が激しい中、京大では基礎を大切にしたいカリキュラムを継続している旨の説明がありました。それに続き、

幹事から支部の近況報告、決算報告、役員改選案の説明を行い、満場一致で承認されました。

総会後、懇親会が開催され、福井の日本酒を片手に久々の再会を喜び、話に花が咲いていました。同窓同士の直接の交流や懐かしい思い出の共有には、集合開催に勝るものではなく、オンラインの開催では代替できないことを実感しました。会の締めでは琵琶湖周航の

歌を出席者で合唱し、散会となりました。

次回の北陸支部総会は、例年通り来年5月下旬に、金沢市内での開始を予定しています。日程等の詳細については、支部幹事から改めて案内しますので、多くの会員の方々のご出席をお願い申し上げます。

森 成人(平15年卒) 記



改選された支部役員  
顧問 中島 恭一(昭40)

顧問 松木 純也(昭44)

支部長 葛原 正明(昭54)

副支部長 笠原 禎也(平元)

副支部長 久和 進(昭47)

評議員 金森 関治(昭40)

評議員 柴田 明(昭40院)

評議員 西念 勉(昭46)

評議員 石丸 哲也(平元)

評議員 林 正則(平5)

評議員 森 成人(平15)

### 九州支部総会報告

令和5年6月3日(土)、福岡市中央区のホテルニューオータニ博多にて、九州支部総会を開催しました。新型コロナウイルスが5類に移行となり、コロナとの共生に向けた日常が始まる中で、今回のハイブリッド(対面+リモート)開催では、12名が集合、1名がリモートで参加されました。また、本部ならびに教室を代表して橋口浩之先生をお迎えしました。全国的な線状降水帯発生により交通機関が乱れていましたが、無事にお越しいただき、参加者一同胸を撫で下ろしました。

会に先立ち、九州支部へ長年ご

貢献いただき、昨年ご逝去された上田保之さま(昭27年卒)のご子息より頂いたお手紙をご紹介いたしました。お手紙には、上田先輩のお人柄や当会への感謝が綴られておりました。総会は工藤幹事(昭和62年卒)の司会のもと能見支部長(昭和54年卒)のご挨拶で始まりました。足元が悪い中でお集まりいただいたことへの感謝、アフターコロナにおける支部運営の在り方、そして九州支部の伝統を守り続ける決意を述べられました。その後、橋口先生から吉田・桂キャンパスや電気系教室の近況、近年の卒業生の進路などについてご紹介いただきました。引き続き、藺田さま(昭51年卒)から「既築家屋のZEH化に伴う再生可能エネルギーと温熱環境等」についてご講演いただきました。当講演は、昨年講演いただいたZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)研究について、温熱環境の改善や電動車の充電ソフト実証結果等を詳細に取りまとめられたものです。また、工藤幹事から令和4年度活動実績・会計報告及び令和5年度活動計画・役員案についての説明があり、満場一致で承認されました。なお、川内野幹事(平4年卒)に代わり、幹事 田口和之

(平7年卒)が、新役員に就任しました。

懇親会は、出席者最年長の岡さま(昭35年卒)より乾杯のご発声をいただき始まりました。参加者全員で酒を酌み交わしながら、終始和やかな雰囲気、昔話や近況報告などに花を咲かせました。また、会員から橋口先生に対して、最近の大学や学生の状況、コロナの影響等について様々な質問が挙がり、活発な議論が交わされました。楽しいひとときもあっという間に過ぎ、新たに就任された田口幹事の締めで懇親会を締めくくり、最後に全員で記念撮影をして散会となりました。

今後よりモート環境の整備により、気軽に懇親会や昼食会へ参加できる環境を構築し、遠隔地に居住する会員の参加や若手会員の定着を図っていきたくと考えております。

田中仁志(平22年卒)記



中部支部総会報告

令和5年6月17日(土)、名古屋駅近くの名鉄グランドホテルにて、令和5年度中部支部総会が開

催されました。本部ならびに教室を代表して大木英司先生をお迎えし、中部支部からは、昭和43年卒から平成31年修士修了の若手まで20名の会員が出席しました。支部総会は酒井支部長の開会挨拶から始まり、

- ・令和4年度の事業報告・決算、令和4年度会計監査報告
- ・役員改選

支部長 小森 憲昭 (S61M)

副支部長 松ヶ谷 和沖 (H1M)

総務幹事 石下 晃生 (H10M)

会計幹事 下廣 大輔 (H1M)

顧問 酒井 和憲 (S55M)

・令和5年度事業計画・予算の順に、小楠前総務幹事、石下総務幹事の司会のもと、スムーズに議事が進行し、全会一致でご承認をいただきました。

総会終了後、来賓の大木先生から洛友会本部と電気系教室の近況報告として、電気系教室懇話会の実施状況、メンタルヘルスケアやラーニングコモンズの設置、電気系組織の異動の状況、卓越大学院プログラムに参加し国際的リ

ダーを育成していることなどご紹介いただきました。大木先生の研究領域である光ネットワーク・ソフトウェアの仮想化・高信頼な制御について分かりやすく解説いただくとともに、専門分野を深めつつV字型の深掘りの重ね合わせにより独創性が生まれるというご主張に、会場は大いに盛り上がりました。

懇親会は、松ヶ谷副支部長の乾杯挨拶から始まり、ホテルのコーズ料理を味わいながら、参加者全員が自己紹介・近況報告を行い、交流を深めました。最後は「逍遙の歌」を合唱し、今後の会・行事での再会を祈念しながら散会となりました。



中部支部総会 集合写真

# 第119回関西支部 ゴルフ競技会報告

## 〈プレー状況〉

第119回関西支部ゴルフ競技会が令和5年5月20日(土)武庫ノ台ゴルフコースにて開催されました。

当日は終日曇り空でありましたが、その分日差しが少なく涼しく過ごすことができ、アウトは平嶋氏(S38年卒)、インは北野氏(S44年卒)の始球式でプレーを開始し、合計21名(うちシニア4名)が競技に汗を流されました。結果は以下のとおりです。(敬称略)

### 〈シニアの部〉

- 優勝 本島 修 (S51年卒)
  - 2位 平嶋 正芳 (S38年卒)
  - (一般の部)
  - 優勝 吉村 治輝 (H23年卒)
  - 2位 中野 信一 (H2年卒)
  - 3位 西田 篤史 (S63年卒)
- また参加者は以下のとおりです。(敬称略)

- S38 平嶋 正芳
- S44 北野 徹
- S51 本島 修
- S56 吉田 豊彦
- S63 西田 篤史
- H2 中野 信一

- H4 下田 一彦
- H7 一木 将人
- H23 出原 歩 吉村 治輝
- H24 井上 智弘
- H26 上田 弘貴 三木 穂高
- H27 小野 裕介 依田 学樹
- H28 出口 樹
- H29 藤田 秀眞
- H30 喜多 謹仁 前原 圭汰
- R1 河本 昌樹 中澤 杏咲

### 〈懇親会〉

プレー終了後、下田氏(H4年卒)の司会により、表彰式兼懇親会が開催されました。

懇親会は平嶋氏(S38年卒)の乾杯のご挨拶からはじまり、表彰式では、本島氏(S51年卒)、吉村氏(H23年卒)より優勝報告を頂くとともに、関西西友会ならびにゴルフ競技会の更なる発展を期待するコメントを頂きました。

### 〈お知らせ〉

洛友会関西支部では同窓生の懇親を深める機会として毎年2回(春・秋)にゴルフ競技会を開催しております。次回は令和5年10月21日(土)を予定しております。シニアの部における参加者が減少傾向にあります

が、同期などお誘い頂くことで老若男女を問わず多数ご参加頂けることを心待ちにしております。

### 〈連絡先〉

下田 一彦 (H4年卒)  
依田 学樹 (H27年卒)  
連絡先 070-8691-8490(依田)  
yodasatoki@c5kansai-ld.co.jp



## 訃報

昭15	時岡 修
昭19	露木源一郎 5・3・24
昭20	亀谷 孝久 4・8・31
昭22	小杉 昇 5・2・9
昭26	若林 二郎 5・5・20
昭28	高津 等 5・1・26
昭29	北野 泰 5・4・11
昭29	前波 武 2・12・17
昭31	常田 幸
昭32	片山 幸昭 3・12・10
昭33	潮崎 安弘 5・3・21
昭34	信国 弘毅 5・3・17
昭35	稲村 彰一 4・6・6
昭35	川村 修 5・2・14
昭36	榎並 隆男 1・9・7
昭37	折口 克明 4・12・14
昭38	村井 真一 5・1・27
昭40	田辺 俊雄 4・12・29
昭43	小松 昭男 4・5・3
昭44	伊藤 高明 3・11・25
昭44	藤 慎一 4・10・21
昭44	津田 孝 4・3・21
昭45	福井 良夫 4・10・9
昭46	奥村 清志 5・4・3
昭60	飯田 和浩 4・7・14

以上の方々がご逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。